

新建築あいち 2023. 7・8月号

新建築愛知支部事務局：株式会社 宮工務店 気付

〒486-0904 春日井市宮町 1-11-25

ホームページ (2022年4月～) URL <http://nu-ae.com>

TEL 0568-34-7775 FAX 0568-34-7797

■ 中部ブロックセミナー「建築とまちづくりセミナーin 千里浜 2023」に 一緒に参加しませんか？

8月26日(土)27日(日)に石川県羽咋市の能登千里浜休暇村で、ブロックセミナーを行います。今回は、5つの講座を行い、自然豊かなキャンプ場で開催を計画しています。5人の講師の方々には、「防災」をテーマに色々ご自身のご経験を語って頂ける予定です。

日本海側に面した広大なロケーションのある、能登千里浜休暇村は、施設内にホテルとキャンプ場がありますので、テントでの宿泊での虫や暑いのが苦手な方でも安心してご参加いただけます。

8月25日(土) 13時から

- 第1講座「炭電池であかりをとみましょう」佐藤博士氏 (NPO 太陽光発電所ネットワーク理事)
- 第2講座「自然エネルギーの上手な使い方」由田昭治氏 (NPO エコプランふくい・新建築福井支部)

8月26日(日) 8時半から

- 第3講座「能登地方での古民家耐震補強について」杉山真氏 (新建築石川支部)
- 第4講座「石川における防災と観光まちづくり」丸谷耕太氏 (金沢大学准教授)
- 第5講座「20世紀の建築空間遺産その3」小林良雄氏 (新建築全国幹事会顧問・新建築東京支部)

※その後、見学コースに分散します

- コース1 (金沢方面)：金沢における市場発祥の地めぐり 案内人：丸谷耕太氏
- コース2 (能登方面)：能登半島の古民家改修見学予定 案内人：杉山真氏
- コース3 (自由見学)：妙成寺、コスモアイル羽咋、西田幾多郎記念哲学館、七尾美術館など

※詳しい申込みパンフレットや参加金額などは、添付の資料にて、ご確認ください。

質問や当日の現地までの移動は、事務局長の甫立(ほどて)まで、ご相談ください。



■ 「みんなの森の生活資本」～居住福祉と生活資本の構築(154)

岡本 祥浩

前回、図書館の生活資本を考えた。今回は、「みんなの森 ぎふメディアコスモス」を紹介したい。「ぎふメディアコスモス」は中央図書館、市民活動交流センター、多文化交流プラザ、展示ギャラリーなどの複合施設だ。2022年の図書館大賞を受賞した。伊東豊雄さんの設計で、延床面積15,440平米、木を多用した混構造の2階建て、高さ16mの建物である。

「図書館は、本で人とまちをつなぐ屋根の付いた公園」だと言う。ここで「本や人との偶然の出会いがあったり、本をまん中に人がコミュニケーションできる誰もが生き生きとした表情に満ちた場所」を目指している。そのために「ここにいることが気持ちいい」「ずっとここにいたくなる」「何度でも来てみたくなる」ことを大切にしている。そして高い空間の質とつなぐ仕掛けを用意して、それらの実現を目指している。

一階は、人が集まり、活動し、つながりの広がり期待し、市民活動の会議や資料づくり、その他の準備のための場や機材が用意されている。一階の中央部は「本の蔵」でガラス張りの書庫が書籍への関心を刺激する。二階の図書館にエスカレーターや階段で向かうと大きな傘が頭上を覆い、新たな世界に迎えられる特別な感覚を味わえる。館内は分野や読者層に合わせてグルーピングされた本棚が配置されている。グループの中央からどの本棚も見渡せるように渦状に配置されている。本棚の高さは大人の目線よりやや低く、館内全体を見渡せる。ゆったりとくつろげる「ひだまりテラス」や岐阜城を臨める「金華山テラス」で、読書の疲れを癒せる。様々なスタイルで本が楽しめるよう、対面読書、一人で集中するブースやグループで議論するブースも用意されている。

「ぎふメディアコスモス」は「図書館と市民活動を軸に地域の可能性を追求する複合文化施設」(図書館大賞の受賞理由)とされているが、「知・文化・絆の拠点」であり「まちを知り、まちにでかける」拠点になり、それらを次の世代である中高生や子どもに渡す場になっている。

「ぎふメディアコスモス」を訪れ、人々が過ごしたい大小の空間や活動したい空間、それらを支える設備、それらを受け入れる仕組みの大事さを実感した。合わせてそれらを機能させる利用者主体の仕組みも忘れてはならないだろう。



ひだまりテラス



本の蔵



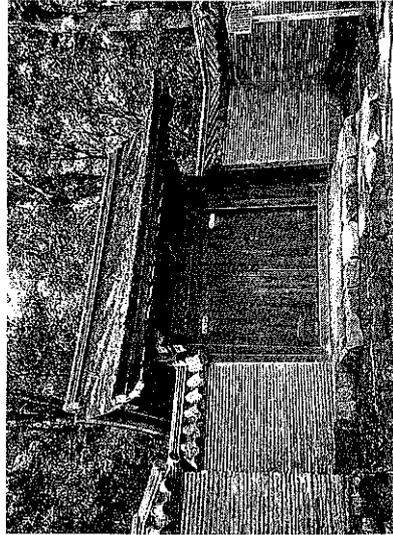
作業スペース

(中京大学教授、日本居住福祉学会会長、新建会員)

歴史探訪シリーズ ②⑤ 熱田区

熱田神宮 清雪門

熱田神宮境内旧参道に沿って清雪門という門が残されていますが、この門はもともとは本宮の北門でありました。日本書紀によると、天智天皇の時代に新羅の僧道行が、神宮に納められていた草薙剣（くさなぎのつるぎ）を盗み、新羅に持ち帰ろうとした事件がありました。このとき僧道行はこの門から外に出たと云われ、以来不吉の門とされ、閉ざされたままで開けられることはなく、不明之門（あかずのもん）と云われ続けました。ちなみに、道行は海上で突如の暴風雨にあたってこの目的を果たすことはできなかつたということです。その後この門は同じ境内の八険宮の北に建て替えられ、今は更に東に移されています。昭和38年の修理の時に、貞享3年（1686）の墨書が発見され、建て替えの時期が明らかになりました。



熱田神宮 清雪門

この門は、もともと平唐門（注1）であったようですが、現在は松皮葺（ひはだぶき—注2）の棟門（むねかど—注3）となっています。

熱田神宮の建物は一時荒廃の危機にあい、多くを失っていましたが、貞享3年正月、幕府の修理が決定され、この年の7月には本宮、八険宮の遷宮があり、この修理の時に新しく造られたものと考えられます。



注1 平唐門 両横に唐破風がある門

注2 松皮葺 檜の皮で葺いた屋根

注3 棟門 2本の柱で建ち、屋根は切妻としているもの

